物事を多面的にとらえた上で自らの意見を主張する力を身につけさせる授業
ー　小論文を効果的に活用する　ー

千葉県立○○○○高等学校　○○　○○（現代社会）

１　はじめに

本校は、普通科の県立高校で，１学年５クラスで構成される。特別支援学校が併設されており，文化祭や体育祭など様々な場面で，同年代の障がいを持った生徒とともに学校生活に取り組んでいる。２年次からは，理系コース，情報コース，文系コースに分かれ，それぞれの特性や進路に応じた教育が行われている。大学短大への進学者は，ほぼ全員が推薦かＡＯ受験で，一般受験する生徒は少ない。部活動加入率は約５０％で，以前より上向いており，多くの部が県大会に出場するなど活躍している。

学習面に目を向けると，新聞やニュースを見る習慣のない生徒が多く，時事的問題に対する興味関心は決して高くない。そのため，論理的な思考も苦手であり，推薦入試やＡＯ入試において，小論文で苦労する生徒を毎年見かける。しかし，本校の生徒はおおむね素直で明るい性格であり，本質的には勉強も嫌いなわけではない。日々の授業にもほとんどの生徒は真面目に取り組んでいる。早い段階でつまずいてしまったために勉強に対しての苦手意識を抱いているだけで，目的意識をはっきりさせ，わかりやすい授業に努めれば，生き生きとした表情で，積極的な取り組みも見られる。そういった意味からも，我々教員の資質や力量が問われることが多い。

２　主題設定の理由

有権者として社会を担っていく上では，社会的事象に対して賛成，反対の判断をし，自らの意見を表明していくことは不可欠な要素である。本校の多くの生徒は真面目で，単純な作業の繰り返しもいとわないが，思考を伴う作業は決して得意ではなく，取り組むこと自体を敬遠してしまう者も少なくない。そこで，自ら考え，判断し，表現する力を育成する手段として小論文を効果的に活用することにした。学習指導要領においても「言語活動の充実」が求められており，小論文を書くことが適切であると考えた。与えられた課題に対し，賛成反対双方の立場を踏まえた上で自らの考えを明確にすること，そして，その理由を論理的に述べることで読み手を説得することは，文章を用いたプレゼンテーションとも言える。相手を説得するためには，自らの考えを主張するだけでは不十分で，相反する立場への理解を示すことも重要な要素である。私達が暮らす日本社会では特にこの傾向が強く，物事を両面からとらえる習慣を身に付けることは，これからの人生においても不可欠であり，良識ある公民的資質を持った有権者になるためにも必要であると考えた。そこで，物事を多面的にとらえた上で自らの意見を主張する力を身に付けさせる授業を研究主題に設定した。

３　研究内容と方法

（１）文章を書く上での基本的ルール

本校生徒は，文章の書き方，原稿用紙の使い方において，小学校低学年レベルでつまずいている者も少なくない。そのため，大半の生徒は，きちんとしたルールや文法に基づき，自らの意思

を表現することができない。文章への苦手意識を取り除くためにも，句読点の打ち方や段落の付け方といった初歩的な部分までさかのぼり，丁寧に指導していく。その方法として，生徒の能力に合わせて作成した自作のテキストを使い，小論文の書き方を段階的に教えていく。また，段落ごとのまとめ方や基本的な文章構成を具体的に例示することにより，小論文は決して難しくないということを認識させる。

（２）基礎的知識の習得

プリント学習により，思考の前提となる基礎知識を指導し，論理的思考の礎とする。無から有は生じないので，判断の材料となる知識は必要不可欠である。使用するプリントに関しても，生徒の能力，特性に応じたものを作成し，自発的に学べるよう工夫する。また，授業の中では，異なる価値観に対して，できるだけ中立的な立場を守り，生徒の思考に偏った影響を与えないよう特に心掛ける。

（３）小論文の作成，評価

分野ごとのまとめとして，小論文を作成させ，達成度を測る。評価は，他者との比較とともに，以前の作品と比較した各自の上達度も加味してつける。初めのうちは，細かなマイナス要素を指摘するのではなく，与えられた分量で意見を表明することに重点を置き，自分の考えを文章にまとめていく作業習慣を身につけることをポイントとする。また，小論文は何度も書くことと同時に，良い文章にふれることも表現力向上の近道であるため，単元ごとに賛成，反対それぞれの立場から書かれた模範解答を作成し，生徒に提示する。その文章を何回か読み，書き写すという作業を通じ，文章能力が自然と身につくようにする。生徒の苦手な「思考」と，得意な「作業」を組み合わせることで，能力の向上を図る。また，生徒の作品の中で良く書けたものを紹介する。

（４）授業前後のアンケート結果の集計，小論文の変化による分析

有権者として必要な，物事を多面的にとらえた上で自らの意見を主張する力が身についたかどうか，また，小論文の作成を通じ，公民的資質が高まったかを，アンケート結果の分析及び生徒の小論文の変化により検証する。

４　研究実践

（１）年間指導計画の位置づけ及び研究実践の概要

年間指導計画で３年次の１学期から２学期にかけ中心的に行う消費税，ＴＰＰ，原発，死刑制度など，我が国が直面する諸問題の中でも，立場や思想により，賛否のわかれる分野において，学習を進める。正答などというものはなく，各自の考え方や，結論に至るまでの論理性を見るために適しているからである。授業で基礎的知識を伝えた上で，生徒がどのように考えるかを文章で確認する。また，時事的問題に興味関心を持つことにより，まもなく有権者となることへの自覚を促すことも目的の一つである。週２回程度（本校の現代社会は４単位），授業の最初１０分～１５分ほどを使い，小論文の書き方を指導する。全１０回の指導を行い，小論文作成に取り組む。１つの内容に関してプリント学習をした後，小論文を書かせる。最初は文字数も少なく，簡単な内容のものから始め，徐々に文字数を増やしていく。

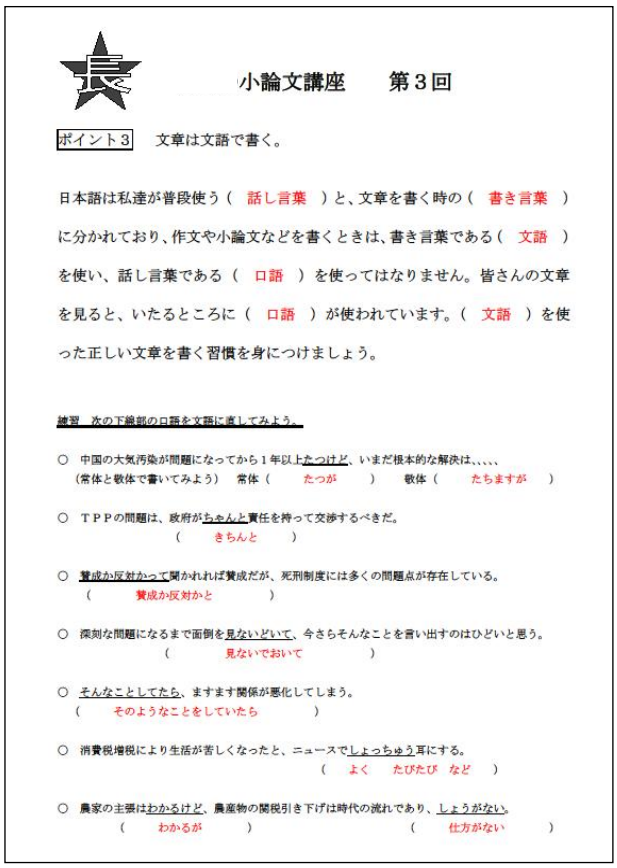
（２）文章の基本的ルール（第１回～５回　小論文指導）

ア　１学期に小論文指導を１０回実施。第１回から第５回までは小論文の基本的なルール，第６回から第１０回までが具体的な書き方や細かなポイントに分かれる。

イ　全１０回の内容，時間，ポイント

回　数	主な内容	時　間	ポイント
第１回	小　論　文　と　は	１５分	小論文と作文の違い
第２回	原稿用紙のルール	１０分	句読点の打ち方やマス目の使い方
第３回	口　語　と　文　語	１０分	口語は使わず，文語で書く
第４回	１　文　の　長　さ	１５分	長くても４０～６０字でおさめ，接続詞でつなぐ
第５回	常　体　と　敬　体	１０分	常体で書くと，客観性が高まる
第６回	様々なポイント	１５分	時間配分　賛成反対の明示　根拠の提示　など
第７回	論文の書き出し	２０分	第１段落の書き方（前置き，現状，問題提起）
第８回	段落の分け方	１５分	４つの段落と，それぞれに書く内容
第９回	良　文　を　読　む	１０分	２つの立場から書かれた模範的な解答を提示　黙読
第10回	良　文　を　書　く	２０分	模範的な解答を原稿用紙に書き写す

ウ　指導用自作テキスト　例



小論文講座　第３回

ポイント３　文章は文語で書く。

日本語は私達が普段使う（　話し言葉　）と、文章を書く時の（　書き言葉　）に分かれており、作文や小論文などを書くときは、書き言葉である（　文語　）を使い、話し言葉である（　口語　）を使ってはなりません。皆さんの文章を見ると、いたるところに（　口語　）が使われています。（　文語　）を使った正しい文章を書く習慣を身につけましょう。

練習　次の下線部の口語を文語に直してみよう。

○　中国の大気汚染が問題になってから１年以上たつけど、いまだ根本的な解決は、、、、
（常体と敬体で書いてみよう）　常体（　たつが　）　敬体（　たちますが　）

○　ＴＰＰの問題は、政府がちゃんと責任を持って交渉するべきだ。
（　きちんと　）

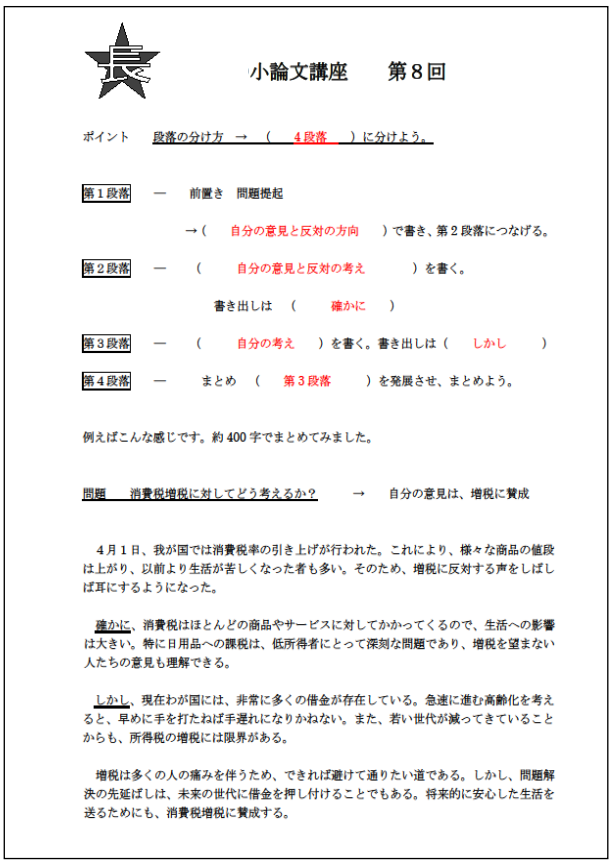
○　賛成か反対かって聞かれれば賛成だが、死刑制度には多くの問題点が存在している。
（　賛成か反対かと　）

○　深刻な問題になるまで面倒を見ないでいて、今さらそんなことを言い出すのはひどいと思う。
（　見ないでおいて　）

○　そんなことしてたら、ますます関係が悪化してしまう。
（　そのようなことをしていたら　）

○　消費税増税により生活が苦しくなったと、ニュースでしょっちゅう耳にする。
（　よく　たびたび　など　）

○　農家の主張はわかるけど、農産物の関税引き下げは時代の流れであり、しょうがない。
（　わかるが　）　（　仕方がない　）



小論文講座　第８回

ポイント　段落の分け方　→　（　４段落　）に分けよう。

第１段落　―　前置き　問題提起
→（　自分の意見と反対の方向　）で書き、第２段落につなげる。

第２段落　―　（　自分の意見と反対の考え　）を書く。
書き出しは　（　確かに　）

第３段落　―　（　自分の考え　）を書く。書き出しは（　しかし　）

第４段落　―　まとめ　（　第３段落　）を発展させ、まとめよう。

例えばこんな感じです。約 400 字でまとめてみました。

問題　消費税増税に対してどう考えるか？　→　自分の意見は、増税に賛成

４月１日、我が国では消費税率の引き上げが行われた。これにより、様々な商品の値段は上がり、以前より生活が苦しくなった者も多い。そのため、増税に反対する声をしばしば耳にするようになった。

確かに、消費税はほとんどの商品やサービスに対してかかってくるので、生活への影響は大きい。特に日用品への課税は、低所得者にとって深刻な問題であり、増税を望まない人たちの意見も理解できる。

しかし、現在わが国には、非常に多くの借金が存在している。急速に進む高齢化を考えると、早めに手を打たねば手遅れになりかねない。また、若い世代が減ってきていることからも、所得税の増税には限界がある。

増税は多くの人の痛みを伴うため、できれば避けて通りたい道である。しかし、問題解決の先延ばしは、未来の世代に借金を押し付けることでもある。将来的に安心した生活を送るためにも、消費税増税に賛成する。

（３）小論文の作成（第１回）

ア　方法

小論文指導の第５回が終わった時点で１度，小論文を課す。具体的なノウハウは第６回から第１０回で指導予定のため，とにかく指定された文字数で時間内に終わるように指示する。生徒には後々自らの文章力が向上したことを実感してもらうため,あえてこの時点で１回目を書かせる。そしてその後にアンケート調査を実施した。以下はその問題である。

問　題　４月から消費税が８％に上がりましたが，これに対して，あなたはどう考えますか。

（４０分　４００字）

結　果　総数　１１０人（文系３クラス）

イ　生徒の書いた文章について

（ア）良く書けた小論文

以下は，消費税に賛成，反対の立場で書かれた作品の中から最も良く書けた２作品である。生徒作品例①は，消費税増税による負担増よりも，社会全体を見て増税に賛成している点を評価した。また，生徒作品例②は，増税への一定の理解を示しながらも景気への影響を考慮して反対している点を評価した。どちらもまだ満足のいく出来ではないが，初期のレベルとして掲載する。

生徒作品例①

私は賛成だ。なぜなら消費税を上げなければ，日本の未来に影響するからだ。それは年金問題だ。今の日本は，少子高齢化が進み，退職をして年金暮らしをしている高齢者が増えている。

しかし，この先，増々年金で生活する人が増えると，高齢者全員に年金が渡らなくなり，生活が出来なくなってしまう。最悪な場合，働いている人の給料も，増々低下していくだろう。このように，日本にさまざまな問題が起こり，国が成り立たなくなるのだ。

だから，消費税を上げることにより，将来の日本の問題を，少しでも小さくするのには，消費税を上げることが一番大事なことだ。

私は，消費税を上げなくては，自分が齢をとった時，生活ができなくなる，お金がもらえなくなることを考えると，もっともっと消費税を上げるべきではないかと強く思う。

生徒作品例②

私は，４月から消費税が８％に上がったことについては反対だ。なぜなら，消費税が上がる事で消費者の財布の紐がきつくなり，物を買わなくなり，経済状況が悪化するからだ。

消費税を８％に上げたという事は，日本経済を円滑に回し，これからの日本のために蓄えることが目的だろう。しかし，実際に消費者の需要が増えるとは考えにくい。百円単位の買い物であればさほど気にしないが，単位が一つ上がり，それと同時に上がる消費税を考えれば消費者のほしいという気持ちは一気に冷めてしまうだろう。そして物を買うという事をあきらめ，だんだんと物を買わなくなっていくだろう。

消費税を５％から８％に上げ，今の日本の経済状況，そしてこれからの日本の経済状況を変

えていこうという考えは，前向きでいいと思う。しかし，上げた事によって本当に消費者と日本が良い方向に向かうかは，自分たち次第である。

（イ）平均的レベルの小論文

次に，平均的なレベルの作品（生徒作品例③）をあげておく。増税により景気への悪影響があることを書いているが，逆の立場（消費税増税の意義や目的）について触れておらず，片側からの視点でしか書かれていない。初回の小論文では，多くの生徒に同様の傾向がみられた。また，自分の体験や感想を述べているだけで，客観性にも乏しい内容の作品も多かった。しかし，まだ書き方のポイントを教えておらず，この時点においては，予想通りの出来であると言える。ちなみに，同じ生徒が２回目に書いた作品を１０ページの生徒作品例④として掲載しておいたが，指導による成果がはっきりと感じられる。

生徒作品例③

私は，消費税が増税されたことは，あまり良くない事だと考える。理由は，消費税の増税によって市民の支出が増え，消費者が商品を買わなくなることにより景気が悪くなる悪循環の原因となる可能性が考えられるからだ。今まで 100 円に対し５円の消費税がかかっていたが，今後はこれが８円となる。これだけでは 100 円に対し３円しか違わないが，「チリも積もれば山となる」と言われるように，これだけでも支出を増加させる原因となる。また，自動販売機の商品や交通機関に運賃などは，性質上，消費税改定にともなう価格変更」等と称して，元来の価格から 10 円単位で，増税分以上の値上げがされている。消費税が 10%になった際には，さらなる値上げが行われて，私たちの生活を圧迫することになるだろう。以上の理由から，消費税は増税すべきではないと考える。

（ウ）文字数についての分析

書き終わらなかった者		４人　（　４％）
規定の文字の８割以下しか書けなかった者	（３２０字以内）	４５人　（４１％）
既定の文字の８割から９割の者	（３２１字～３７９字）	４０人　（３６％）
規定の文字の９割以上書いた者	（３８０字以上）	２１人　（１９％）

１回目なので，どの程度かけるか心配したが，予想通り規定の文字数を書くことが困難な生徒が多くみられた。400 字というと，逆に書きたいことを書き切れずに難しい字数だと思ったが，ほとんどの生徒にとっては，これでもまだ多いようである。一般的に９割以上が最低ラインと言われるが，そこまで書けた生徒は全体の２割以下であった。

（エ）内容についての分析

a　消費税への賛成，反対

増税に賛成	６１人　（５５％）
増税に反対	３６人　（３３％）
賛成　反対　はっきりせず	１３人　（１２％）

問題文には，「消費税が８％に上がったが，これに対してどう考えるか。」と書かれている。小論文を書く上で最も大切なのは，賛成か反対かを明示することである。そのことを指導する前に書かせたが，比較的容易な題材だったため，９割近い生徒が，賛成，反対を表明していた。ただし，「増税に賛成だ」と書き始めているのに，長々と増税に対する反対意見を述べていたり，その逆も多かったりと，説得力に欠ける文章が少なくなかった。「モノの値段が上がって嫌だ」というような短絡的な内容が多いと予想していたが，「日本経済全体を見渡して増税に賛成」という意見が半数以上だったことは予想外であった。

b　自分と逆の立場に対する理解がみられるか。

記述あり	６０人（６２％）
記述なし	２３人（２４％）
はっきりせず	１４人（１４％）

a で，賛成または反対の意見を表明している 97 人について，自分と逆の立場の考えに触れているかを見たところ，６割以上の者は，何らかの形で触れられていた。しかし，中には自分の考えだけで規定量を書ききれないため，字数稼ぎで書かれているような内容もあり，「怪我の功名」的な要素も多く見られた。また，うまく文章を構成できず，反対の立場に触れたことで，かえって論点がぼやけてしまった作品も少なくなかった。

ウ　アンケート結果

あなたが小論文に対して持っている不安な点は何ですか。（複数解答可）

自分の考えを上手くまとめられない	８４人（７６％）
書く内容がわからない（知識が足りない）	８１人（７４％）
文章を書くことに苦手意識がある	５８人（５３％）
書き方がわからない	５２人（４７％）

このアンケート調査は，小論文について授業中に簡単な講座を５回設け，400 字の論文を１度書かせてから５月中旬に行った。その結果，生徒が小論文に対して苦手意識を持っている主な理由が，書く内容に関する知識の不足，自分の考えを文章にまとめる力の不足の２点であることがわかった。なお，５回の講座は，非常に初歩的な内容であり，具体的な小論文の書き方にはまだ触れていない。また，内容に関する授業も行わず，生徒が持っている知識や情報のみに基づいて論文を書かせた。

（４）模範解答の書き写し（評価基準の理解）

生徒に小論文を書かせた後，賛成，反対それぞれの立場から書かれた２つの模範的な文章を提示する。同じ内容に対して別の立場から書かれた２つの文章をくり返し読み、書き写すことで，文章の書き方やまとめ方が自然に身に付くようにする。時間の制約もあり，１枚１枚に対し，細かな添削指導は行っていない。書き写す際は，文章の流れに気を使い，ただの作業として取り組まないよう注意を促す。なお，ここで生徒に提示する模範的な解答文は以下の事に気を付けて作成し，これが評価基準であることも説明した。

・　できるだけ平易な表現を使う。
・　１文を短くし，読みやすくする。
・　論点を整理し，簡潔にまとめる。
・　第１，第２段落で，自分と異なる主張への理解を部分的に示す。その際，第２段落は「確かに」で始める。
・　第３，第４段落で自分の意見をしっかりと述べる。その際,第３段落は「しかし」で始める。

（５）基礎的知識の習得（第６回～１０回　小論文の具体的な書き方から次のステップへ）

ア　方法

全１０回の小論文指導を行った後，必要な知識を授業で与えた上で小論文を書かせた。５月に生徒からとったアンケートの結果で，小論文が苦手な理由として，約４分の３の生徒が「書く内容がわからない」つまり，知識が足りないと答えた。全10回の小論文指導は，あくまで小論文の書き方に関してであり，これを完ぺきにマスターしても，求められている設問に対する知識の引き出しがなければ，小論文を書きようがない。そこで，次のステップとして，事前に賛成，反対それぞれの立場からの意見をまとめたプリントで授業をした後に小論文を書かせてみた。

イ　知識を習得する授業

（ア）授業形態

講義形式で，１つの内容に関してＢ４版のプリント１枚にまとめる。原則として，１時間の授業で１枚のプリントを使うが，内容によっては数時間の授業で１枚のプリントを仕上げることもある。また，必要に応じて，白地図なども用いる。授業内容を理解せず，ただ答えを書き写すことのないよう、プリントの空欄には番号などはふっていない。また，（　　）を設けず，余白を指定して書かせる部分も多い。集中して聞いていれば，どこに書くのかは理解でき，今までも問題は起きていない。番号をふると，ただの作業になってしまう可能性が高いので，あえて入れていない。

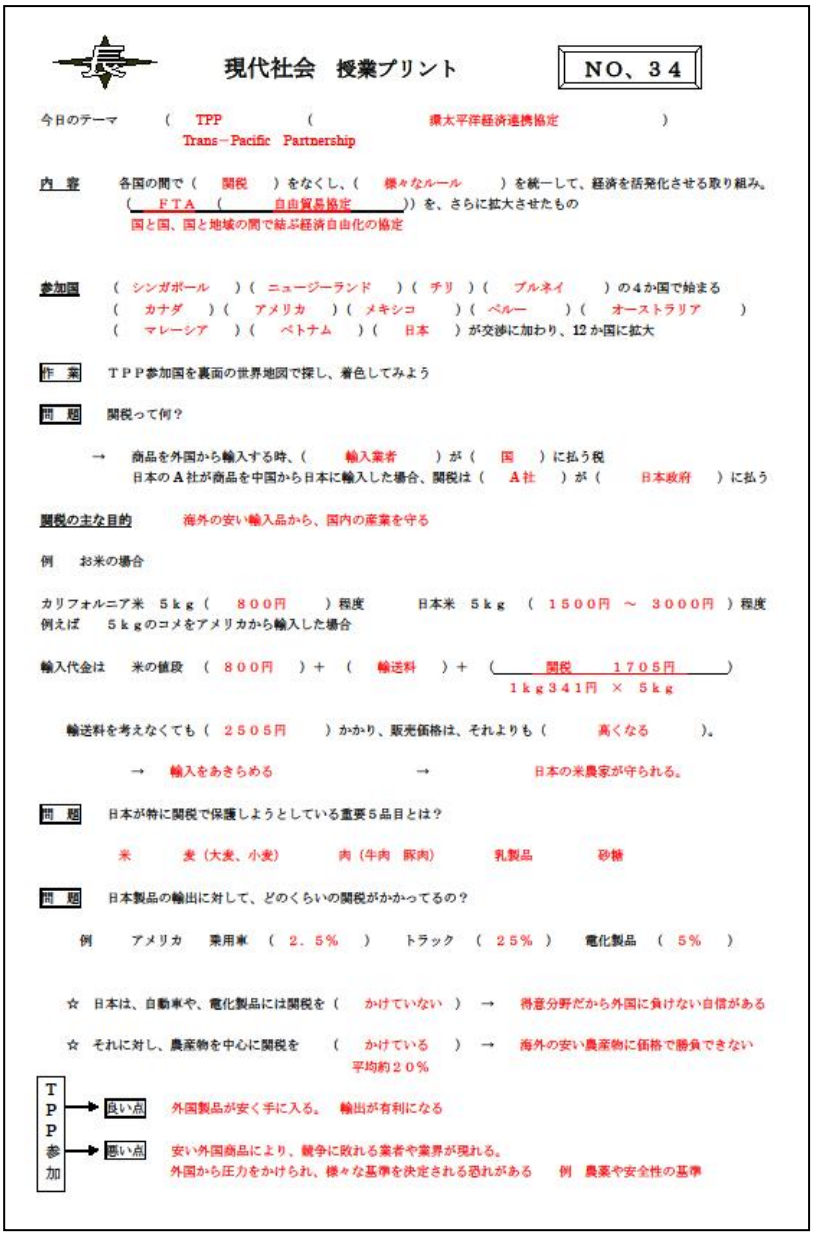
（イ）注意している事項

a　生徒が興味を持って自発的に授業に取り組めるよう,世の中でおきている出来事を，できるだけ身近な例に置き換えて説明する。
b　賛成，反対や考え方など，自分自身の考え方や思想を押し付けないよう，できる限り中立的な立場で授業を進める。
c　生徒が判断するために必要な知識を，大きく２つの立場に分けて説明する。あまり多角的にならないよう，論点を整理して説明する。
d　プリントは，色ペンを使う事や構成や配置を工夫する事で，ビジュアル的な要素も考慮する。また後で読み返した時に授業内容を思い出せるよう説明文などを加える。必要事項をあらかじめ整理し,時間を有効に使えるため，プリントを使用している。
e　板書事項や口頭での説明事項を，プリントのどの部分に書くのかを，わかりやすく説明する。

（ウ）　具体的な授業実践例（ＴＰＰに関して）

ａ　導入

・ＴＰＰ交渉参加の 12 か国を，太平洋が中心の白地図に着色させ，「環太平洋」という概念を理解させる。
・関税について，その目的と意義を説明し，理解させる。



現代社会　授業プリント　　NO、３４

今日のテーマ　（ TPP Trans－Pacific Partnership （環太平洋経済連携協定 ）

内　容　各国の間で（ 関税 ）をなくし、（ 様々なルール ）を統一して、経済を活発化させる取り組み。
（ ＦＴＡ （ 自由貿易協定 ））を、さらに拡大させたもの
国と国、国と地域の間で結ぶ経済自由化の協定

参加国　（ シンガポール ）（ ニュージーランド ）（ チリ ）（ ブルネイ ）の４か国で始まる
（ カナダ ）（ アメリカ ）（ メキシコ ）（ ペルー ）（ オーストラリア ）
（ マレーシア ）（ ベトナム ）（ 日本 ）が交渉に加わり、12 か国に拡大

作　業　ＴＰＰ参加国を裏面の世界地図で探し、着色してみよう

問　題　関税って何？

→　商品を外国から輸入する時、（ 輸入業者 ）が（ 国 ）に払う税
日本の Ａ社が商品を中国から日本に輸入した場合、関税は（ Ａ社 ）が（ 日本政府 ）に払う

関税の主な目的　海外の安い輸入品から、国内の産業を守る

例　お米の場合

カリフォルニア米　５ｋｇ（ ８００円 ）程度　　日本米　５ｋｇ　（ １５００円 ～ ３０００円 ）程度
例えば　５ｋｇのコメをアメリカから輸入した場合

輸入代金は　米の値段　（ ８００円 ）＋（ 輸送料 ）＋（ 関税　１７０５円 ）
１ｋｇ３４１円 × ５ｋｇ

輸送料を考えなくても（ ２５０５円 ）かかり、販売価格は、それよりも（ 高くなる ）。

→　輸入をあきらめる　　→　日本の米農家が守られる。

問　題　日本が特に関税で保護しようとしている重要５品目とは？

米　麦（大麦、小麦）　肉（牛肉　豚肉）　乳製品　砂糖

問　題　日本製品の輸出に対して、どのくらいの関税がかかってるの？

例　アメリカ　乗用車（ ２．５％ ）　トラック（ ２５％ ）　電化製品（ ５％ ）

☆　日本は、自動車や、電化製品には関税を（ かけていない ）→　得意分野だから外国に負けない自信がある

☆　それに対し、農産物を中心に関税を（ かけている ）→　海外の安い農産物に価格で勝負できない
平均約２０％

ＴＰＰ参加
→ 良い点　外国製品が安く手に入る。　輸出が有利になる
→ 悪い点　安い外国商品により、競争に敗れる業者や業界が現れる。
外国から圧力をかけられ、様々な基準を決定される恐れがある　例　農薬や安全性の基準

ｂ　展開

・日本の農業の現実について米を例に説明し，実感させる。
・昨年の千葉県における米の平均収穫量（10ａで 544ｋｇ）を説明する。わかりやすい場所を例に，どのくらいの米がとれ，１ｋｇ300 円，売り上げの２割が利益とすると，どの程度の収益があるかを計算する。
・教室　　7.4m×7.4m
　　収穫　　30ｋｇ
　　売上額　　９万円
　　利益　　1.8 万円
・東京ディズニーランド 51ｈａ
　　収穫　　28 万ｋｇ
　　売上額　　8400 万円
　　利益　　1700 万円
・アメリカの１戸当たりの農地が日本の 100 倍，オーストラリアは東京ディズニーランド 70 個分という説明し，日本の農業がいかに厳しい状況におかれているかを説明する。
・米の関税（1 kgにつき 341 円）について説明し計算させ，安い外国米がなぜ国内に輸入されないのかを解説する。

ｃ　まとめ

・輸入品とは逆に日本の工業製品に対する関税を説明し，弊害を理解させる。
・非関税障壁に関する説明をし，食の安全などについても考えさせる。ただし，ここでは論点が多角的になりすぎるので，あまり深く触れず，関税を中心に考えさせる。
・これらの授業内容を踏まえた上で，ＴＰＰ参加に賛成か反対かの考えをまとめ，論理的に説明できるよう促す。

（６）小論文の作成（第２回）

全 10 回の小論文指導を行った後，小論文を書く。

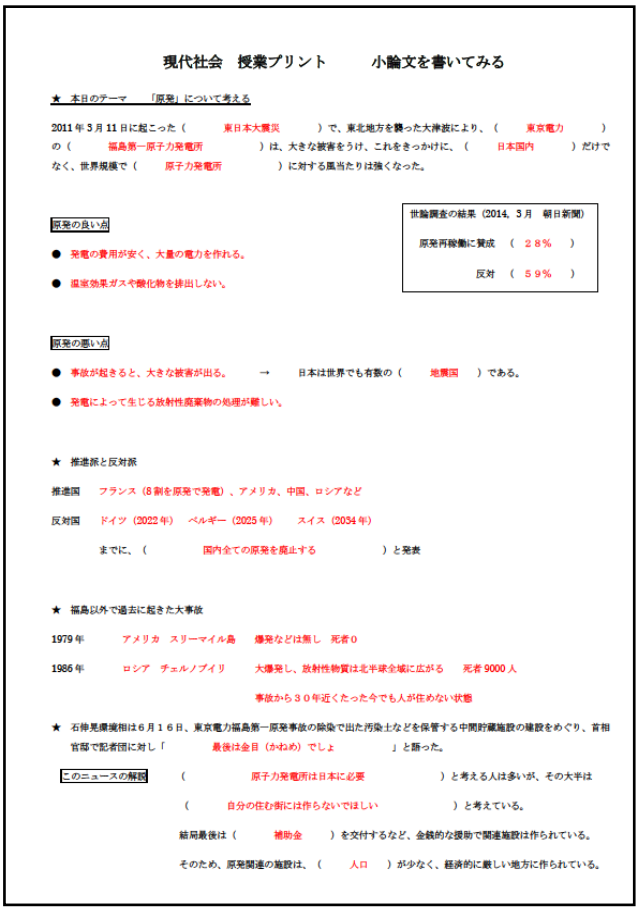
問題　○　原子力発電所についてどう考えるか。

　　○　死刑制度についてどう考えるか。

条件

・　授業は，それぞれの内容について各３５分間使い、簡潔に教える。
・　書く時間は，約６０分（最初の授業の残り時間と次の授業）。
・　指定文字数は６００字～８００字。
・　授業プリント，及び全１０回の小論文プリントは，見ながら書いてよい。
・　欠席者や時間内に終わらない者は宿題とし，後日提出する。

「原子力発電所」についての授業プリント



現代社会　授業プリント　　小論文を書いてみる

★　本日のテーマ　「原発」について考える

2011 年 3 月 11 日に起こった（　東日本大震災　）で、東北地方を襲った大津波により、（　東京電力　）の（　福島第一原子力発電所　）は、大きな被害をうけ、これをきっかけに、（　日本国内　）だけでなく、世界規模で（　原子力発電所　）に対する風当たりは強くなった。

世論調査の結果（2014、3 月　朝日新聞）
原発再稼働に賛成　（　２８％　）
反対　（　５９％　）

原発の良い点

● 発電の費用が安く、大量の電力を作れる。

● 温室効果ガスや酸化物を排出しない。

原発の悪い点

● 事故が起きると、大きな被害が出る。　→　日本は世界でも有数の（　地震国　）である。

● 発電によって生じる放射性廃棄物の処理が難しい。

★　推進派と反対派

推進国　フランス（8 割を原発で発電）、アメリカ、中国、ロシアなど

反対国　ドイツ（2022 年）　ベルギー（2025 年）　スイス（2034 年）

までに、（　国内全ての原発を廃止する　）と発表

★　福島以外で過去に起きた大事故

1979 年　アメリカ　スリーマイル島　爆発などは無し　死者０

1986 年　ロシア　チェルノブイリ　大爆発し、放射性物質は北半球全域に広がる　死者 9000 人

事故から３０年近くたった今でも人が住めない状態

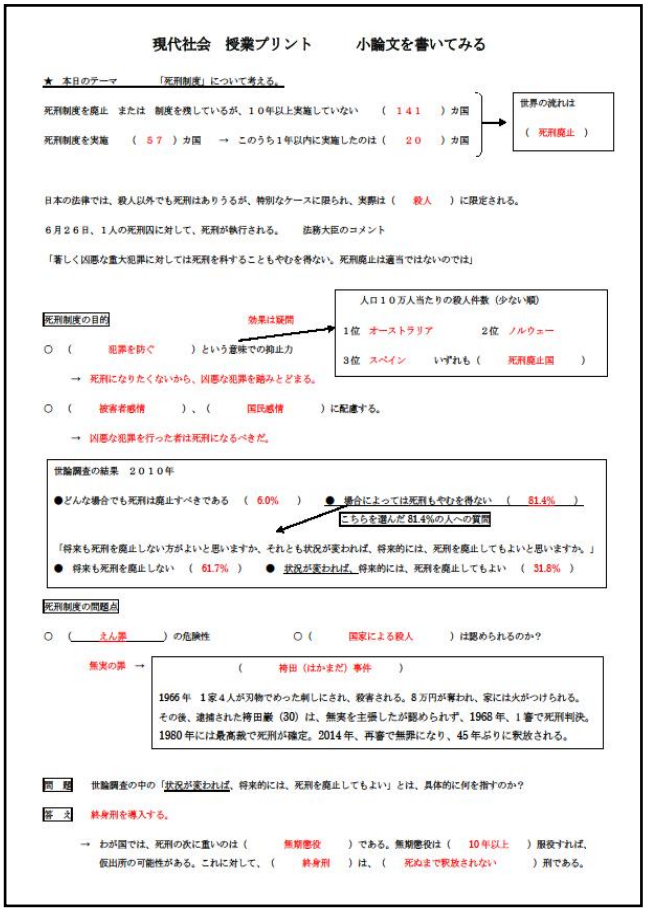
★　石井見県規相は６月１６日、東京電力福島第一原発事故の除染で出た汚染土などを保管する中間貯蔵施設の建設をめぐり、首相官邸で記者団に対し「　最後は金目（かねめ）でしょ　」と語った。

このニュースの解説　（　原子力発電所は日本に必要　）と考える人は多いが、その大半は（　自分の住む街には作らないでほしい　）と考えている。

結局最後は（　補助金　）を交付するなど、金銭的な援助で関連施設は作られている。

そのため、原発関連の施設は、（　人口　）が少なく、経済的に厳しい地方に作られている。

「死刑制度」についての授業プリント



現代社会　授業プリント　　小論文を書いてみる

★　本日のテーマ　「死刑制度」について考える。

死刑制度を廃止　または　制度を残しているが、１０年以上実施していない　（　１４１　）カ国

死刑制度を実施　（　５７　）カ国　→　このうち１年以内に実施したのは（　２０　）カ国

世界の流れは（　死刑廃止　）

日本の法律では、殺人以外でも死刑はありうるが、特別なケースに限られ、実際は（　殺人　）に限定される。

６月２６日、１人の死刑囚に対して、死刑が執行される。　法務大臣のコメント

「著しく凶悪な重大犯罪に対しては死刑を科することもやむを得ない。死刑廃止は適当ではないのでは」

死刑制度の目的　　効果は疑問

○（　犯罪を防ぐ　）という意味での抑止力

→　死刑になりたくないから、凶悪な犯罪を踏みとどまる。

人口１０万人当たりの殺人件数（少ない順）
１位　オーストラリア　　２位　ノルウェー
３位　スペイン　　いずれも（　死刑廃止国　）

○（　被害者感情　）、（　国民感情　）に配慮する。

→　凶悪な犯罪を行った者は死刑になるべきだ。

世論調査の結果　２０１０年

●どんな場合でも死刑は廃止すべきである　（　6.0%　）　●　場合によっては死刑もやむを得ない　（　81.4%　）

こちらを選んだ 81.4%の人への質問

「将来も死刑を廃止しない方がよいと思いますか、それとも状況が変われば、将来的には、死刑を廃止してもよいと思いますか。」

●　将来も死刑を廃止しない　（　61.7%　）　●　状況が変われば、将来的には、死刑を廃止してもよい　（　31.8%　）

死刑制度の問題点

○（　えん罪　）の危険性　　○（　国家による殺人　）は認められるのか？

無実の罪　→　（　袴田（はかまだ）事件　）

1966 年　1 家 4 人が刃物でめった刺しにされ、殺害される。8 万円が奪われ、家には火がつけられる。
その後、逮捕された袴田巌（30）は、無実を主張したが認められず、1968 年、1 審で死刑判決。
1980 年には最高裁で死刑が確定。2014 年、再審で無罪になり、45 年ぶりに釈放される。

問題　世論調査の中の「状況が変われば、将来的には、死刑を廃止してもよい」とは、具体的に何を指すのか？

答え　終身刑を導入する。

→　わが国では、死刑の次に重いのは（　無期懲役　）である。無期懲役は（　10 年以上　）服役すれば、仮出所の可能性がある。これに対して、（　終身刑　）は、（　死ぬまで釈放されない　）刑である。

生徒の書いた小論文への評価

・　賛成か反対かの表明，自分と異なる立場への理解については，全員が述べられていた。この点に関して，当初の目的は，ほぼ達せられたと判断する。

・　既定の文字数については，約８割がクリアーできており，残り 2 割が 400 字～600 字の間で，400 字以下は 1 人もいなかった。１回目よりも文章に慣れてきたことが伺える。

・　段落は，約８割の者が４段落に分け，指定した通りの書き方をしていたが，段落ごとの分量にばらつきがみられる生徒が多く，この点は今後の課題と言える。
・　全体の約１５％の作品は，以下の生徒作品例④⑤と同程度のレベルの出来であり，他の者も最初に書いた小論文と比べると格段の進歩がみられた。

生徒作品例④　　原子力発電についてどう考えるか。

2011 年，わが国は，いまだかつてない大震災により，東京電力福島第一発電所が大きな被害を受けた。今も周辺地域では放射能汚染により帰宅が困難になるなど、大きな影響を及ぼしている。それに伴い，国内外を問わず原子力発電所の危険性を訴え，稼働停止を求める声が強まってきている。日本国内にある原子力発電所は，次々と稼働が停止され，現在は全く稼働していない状態である。

確かに原子力発電所は，自然災害やヒューマンエラーなどの要因により，重大な事故に至る可能性が考えられる。もし，放射能物質が漏れるような大事故に発展すれば，現在の福島のように，帰宅が困難になったり，チェルノブイリのように数十年が経過しても人が住めないような状態になったりしてしまうかもしれない。また，事故が発生しなくても，放射性廃棄物の処理が困難なことも，大変重要な問題である。

しかし現在，発電能力やコスト面で原子力発電に代わる方法は存在しない。我が国では，原子力発電を停止し，不足する分の電力を，主に火力発電により補っている。だが，火力発電は，発電のためのコストが原子力発電と比べて高くなる。その結果，我々が支払う電気料金も高くなっている。また，原子力発電は，事故さえ起こさなければ，温室効果ガスや酸化物をほとんど排出せず，地球環境にとっても非常に良い発電方法でもあるのだ。

福島の原発事故が与えた影響は大きく，多くの人にとって原子力発電には悪い印象がある。しかし，日本の経済発展のためには，安く大量の電力を作ることのできる原子力発電所が必要である。我々の生活のためにも，原子力発電所を再稼働し，安全に運営するべきである。

この作品を高く評価した理由

・原子力発電所の危険性や問題点，過去に起きた事例が述べられている。
・その上で，原子力発電所に賛成する理由が，発電コスト，環境問題など多面的に述べられている。
・メリット，デメリットを踏まえた上で，原発再稼働を推している。

生徒作品例⑤　　死刑制度についてどう考えるか。

現在死刑制度を実施している国は 57 か国あり，このうちの 20 か国は 1 年以内に死刑を実施している。日本もこの中に含まれるが，世界の中では少数派であり，死刑制度を続けていくかどうかで問題となっている。

確かに死刑制度には，犯罪を防ぐ，被害者や国民感情に配慮する，などたくさんの目的がある。死刑になりたくないから凶悪な犯罪を踏みとどまる，という人もいるだろう。世論調査では，国民の８割以上が死刑制度に賛成しており，わが国では死刑制度を望む者が少なくはない。

しかし，死刑制度を廃止している国で犯罪が増えているわけではない。人口当たりの殺人件数を比べると，最も少ないオーストラリア，ノルウェー，スペインは，いずれも死刑制度廃止国である。実際に世界の 141 か国では，死刑制度を廃止，または制度はあっても 10 年以上実施しておらず，世界の流れは死刑廃止の方向へ向かっている。また死刑を廃止した方が良い理由はもう１つある。それは，えん罪の危険性があるからだ。先月，死刑囚であった袴田巌さんが再審で無罪となり，45 年ぶりに釈放された。袴田さんは死刑が行われなかったのでまだ良かったが，もし死刑が実施されていたら取り返しのつかないことになっていた。死刑制度は，無罪の人の命を奪ってしまう危険性がある。

このような理由から，私は死刑制度を廃止するべきだと思う。そして，その代わりに終身刑を導入して，凶悪な犯罪を行った者は，死ぬまで刑務所で罪を償うべきである。

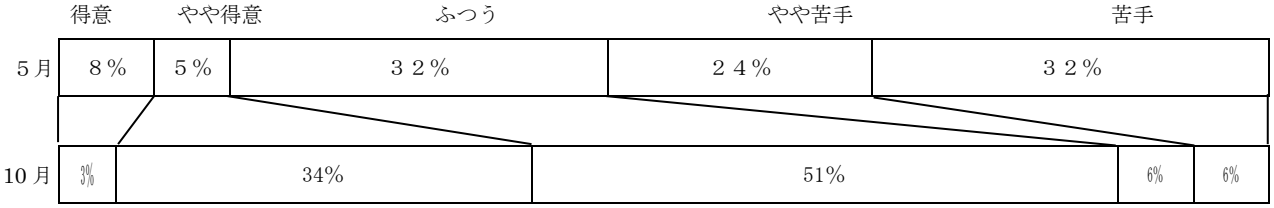
この作品を高く評価した理由

・犯罪抑止や被害者感情への配慮など死刑制度の意義が述べられている。
・その上で，死刑制度の問題点（抑止力への疑問，世界の流れ，えん罪の危険性）が述べられている。
・メリット，デメリットを踏まえた上で，死刑制度の廃止を主張している。
・単なる反対にとどまらず，代替案として終身刑の導入を提案している。

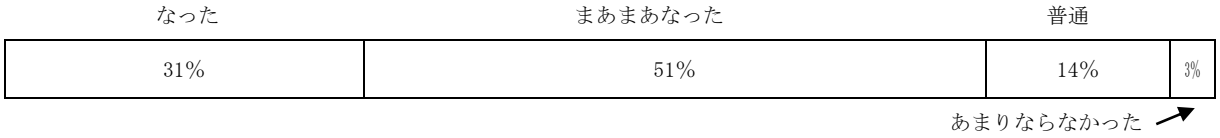
５　成果と課題

平成２６年１０月に２回目のアンケート調査をとった。その成果は以下の通りであった。

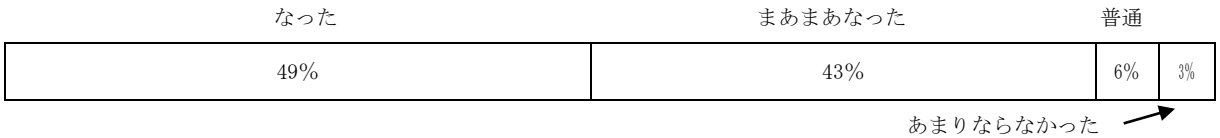
◇　小論文を書くのは



◇　小論文で，自分の意見を書けるようになったか。　全然ならなかった の回答は無し（０％）



◇　自分と反対の意見について考えるようになったか。　全然ならなかった の回答は無し（０％）



◇　反対の意見に理解を示した上で，自分の意見を書けるようになったか。全然ならなかった の回答は無し（0％）

◇　小論文を書くことで，世の中の出来事に興味を持つようになったか。全然ならなかった の回答は無し（0％）

なった	まあまあなった	普通	あまりならなかった
46%	43%	9%	3%

その他、生徒の意見

●前よりもニュースを見るようになった。●小論文はすごく難しい感じがしたけど，やってみたら意外と簡単だった。●世の中の事も理解しながら，小論文を書けるようになった。●２０歳になったら、いろんなことを考えて選挙に行こうと思った。●ポイントを教えてもらってからすごく書きやすくなった。●意見型の小論文も，授業のおかげで書けるようになった。●書き方を確認することによってすらすら書けるようになった。●世界のニュースを見るようになり，また，それについて考えるようになった。●反対の意見を考えることが今まではなかったので，とても大事なことだと思った。●考え方を教わってから視野が広がった。●世の中の事を客観的に見られるようになった。●物事の考え方が今までより大人になった。

アンケートを見ると，小論文が得意またはやや得意と答えた生徒が，指導前の１３％から３７％に増加したこと，反対に苦手またはやや苦手と答えた生徒が５６％から１２％に減少したことから，ほとんどの生徒が，文章を書くことへの苦手意識を払しょくできたと言える。また，提出された論文を見ても，ほぼ全員が自分の反対意見への理解を示した上で自分の意見を主張することができていた。これは考え方をマニュアル化して指導したこと，題材に関する知識を授業で扱ったことによるものと思われる。小論文が得意と答えた生徒が８％から３％に減少したことに関しては，初めて本格的に小論文に触れ，「得意だと思っていたが，そうではなかった」という生徒が何人かいたためと推測される。いずれにしても，小論文を書くことを手段として，世の中の出来事に興味関心を持つようになったこと，客観的で広い視野を持てるようになったことは大きな成果である。さらに，異なる考え方にも一定の理解を示し，自分の意見だけを一方的に主張しなくなった事からも，当初の目的はほぼ達成されたと思われる。これを機に，生徒たちが幅広い視野を持ち，自分の事だけでなく社会全体の事を考えて，有権者としての１票を投じられるようになることに期待している。また，反対の立場の者への理解を示すことで，今後，社会生活を円滑に営む上での手助けになれば幸いである。

なお，今回は事前に関係する分野の授業を行い，必要な知識，情報を与えてから小論文の作成を行ったが，今後の課題として，生徒が世の中の出来事に興味関心を持ち，自発的に知識や情報を収集できるよう導いていきたい。

６　おわりに

教員となってから２０年以上がたち，多忙な毎日で，ともすると日々の授業は惰性で繰り返されつつある。そんな中，教科研究員という機会を与えていただき，研究意欲の高い研究員の方々と同じ時間を過ごせたことは，私にとって自らを見直す良い機会であった。この経験を今後の教員人生に生かし，生徒のために力を尽くしていきたいと考えている。最後に，この研究にあたり，ご指導くださった教育庁指導課ならびに教科指導員の先生方，そしてともに研修を積んだ教科研究員の先生方には厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。